

2005 年度
ライフワールド・ウオッチセンター
活動報告書

自 2005 年 4 月 1 日

至 2006 年 3 月 31 日

お茶の水女子大学
ライフワールド・ウオッチセンター

目 次

I. はじめに	3
II. 教育活動	3
1. 「化学・生物総合管理の再教育講座」の実施	3
2. 講演会・セミナー等の開催	4
2-1. 「お茶の水学術サロン」の開催	
III. 研究活動	5
1. 服田研究室	5
1-1. 科学技術リテラシー像策定のための基盤調査	5
2. 増田研究室	5
2-1. 化学物質総合管理学に関する調査・研究	5
2-1-1. 化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究	5
2-1-2. 化学物質管理に係る法規制の国際比較と日本の法律体系に関する研究	7
2-1-3. ナノ材料のリスク評価に関する研究	8
2-2. 社会技術革新学に関する調査・研究	9
2-2-1. 機能性材料における技術革新に関する研究	9
2-3. 人材育成に関する調査研究	10
2-3-1. 社会人の再教育に関する調査・研究	10
IV. 成果・業績一覧	11
1. 刊行物・著書	11
2. 報告書	11
3. 報文	11
4. 学会発表等	13
5. 講演等	14
6. 報道等	14
V. 体制	15
1. センター教職員	15
2. ライフワールド・ウォッチセンター運営委員会	15
付録 1 2005 年度 LWWC 活動年表	16
付録 2 LWWC 教職員名簿	17
付録 3 LWWC 運営委員名簿	18
付録 4 2005 年度 LWWC 運営委員会活動状況	19

I. はじめに

ライフワールド・ウォッチセンター(LWWC)は、生活の安全・安心や環境に関する教育体系の調査・研究、開発並びに教育・研修の実践を行い、関係諸機関と連携し、この分野において中心的な役割を担う人材の育成を行い、もって安全で安心な生活世界の構築を推進することを目的として 2003 年 7 月に設立された。具体的には、専門機関・シンクタンク、学会・大学、行政・自治体、産業界、報道機関、NGO・NPO など幅広い分野の諸機関と連携し、情報の集積・発信の拠点として、また学内外の研究者・教育者・技術者との連携の拠点として機能し、生命、生物、生活、人生、生存の 5 つの視点から現代社会を検証すべく調査研究を進めるとともに、現代社会をより良く理解するための教育活動を推進している。

設立 3 年目となる 2005 年度は、上に掲げた LWWC の役割を保持しつつ、化学物質総合管理に関する調査研究などを進めるとともに、特に社会人教育の推進に力点を置いて活動した。2004 年度後期に 15 科目で開講した「化学・生物総合管理の再教育講座」は 2 年目を迎え開講科目が 56 科目と増加するとともに受講者数も増え順調な発展を遂げつつある。

II. 教育活動

1. 「化学・生物総合管理の再教育講座」の実施

「化学・生物総合管理の再教育講座」は、化学物質や生物の管理に関して、或いは技術革新と生活や社会の変革に関して、多様な社会人に向けて幅広い総合的な学習の機会を提供することを目的として始まり、2005 年度で 2 年目に入った。

2005 年度は前期と後期の通年で開講し、年間を通じた教育体系を整えた。

2004 年度より科目数を増やし、前期と後期それぞれ 28 科目とした。カリキュラムは化学物質総合評価管理学群と生物総合評価管理学群、そして技術リスク学群、コミュニケーション学群および社会技術革新学群の 5 学群で構成し、化学物質や生物のもたらすリスクの評価や管理についての確に理解するとともに、その背景にある技術革新および技術革新と生活や社会との係わりについて理解するための知見を広く提供するカリキュラムの構成とした。

また、実学的学習を重視するため、専門機関・シンクタンク、NPO・NGO、学会・大学および産業界と連携し様々な実務体験を豊富に有する専門家を講師として迎え、総勢 377 名の講師陣によって、全 56 科目 836 講義を行った。

さらに、お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター内に、再教育講座の円滑な運営に資するために化学・生物総合管理再教育講座推進委員会と、再教育講座の実施および成果について評価するために化学・生物総合管理再教育講座評価委員会を設置し、本講座の質を不断に向上させる体制を整えた。

上記目標を達成するために推進委員会を計 6 回開催して、カリキュラムの編成、受講者の募集と選考、講義の実施、成績の評価と受講修了証の発行、教材の作成および平成 17 年度の準備などを審議するとともに、推進委員会の審議を踏まえて作成教材を用いて実証講義を実施した。

このような体制の下に、2005 年度は、首都圏はもとより日本全国から受講者を得て、90 分授業を 15 回受講する者の総勢は 1237 名に達した。そして 20 歳代から 50 歳代までの現役世代の

受講者が約 90%を占め、現役世代の強い支持を得た。また、多様な目的意識を持って参加している受講者から、「職業に役に立つ」、「教養を高める」などとの指摘とともに、全体として高い評価を得た。

「化学・生物総合管理の再教育講座」は、2004 年度から 5 年間の予定で文部科学省の科学技術振興調整費による委託事業として支援を受けている。

2. 講演会・セミナー等の開催

2-1. 「お茶の水学術サロン」の開催

「お茶の水学術サロン」は、教養教育、市民教育の機会を広く社会に提供し、社会（生活者・消費者、教育界、学界・専門機関、産業界、行政）の双方向性のチャンネルを構築し、相互信頼の醸成に資する目的で、各界の著名な方を講師に招き、話題の提供を受け参加者と質疑を交わすことを趣旨としている。2005 年度は以下のとおり 2 回開催した。

開催に際して、お茶の水女子大学の教職員、院生・学生、附属中高校生のほか、ホームページとニュースレターなどの広報媒体を用いて広く社会に参加を呼びかけた。

第 9 回 日時：2005 年 6 月 27 日（月）19:00—21:00

講師：Michael P Holsapple 氏〔Executive Director, International Life Sciences Institute (ILSI)/Health and Environmental Sciences Institute (HESI)〕

演題：「Improving our Approach to Risk Assessment : State-of-the-Science within HESI
（リスクアセスメントの進歩を目指して：HESI における最先端科学への取組み）」

逐次訳通訳：武居綾子氏〔(有)イカルス・ジャパン、取締役社長〕

参加者： 約 100 名

概要： HESI は国際的な非営利団体である ILSI（国際生命科学協会）の活動の一環として存在しており、医薬品や化学品の安全に関する分野を中心に活動している。構成員は産業界、学界、行政関係からの人々からなる。HESI では、新たに取り組むべき科学的な問題について、毎年 1 回、会員企業や理事会のメンバー、学界、行政関係者が参加する EI 推進委員会で新たに取り組む問題を選考する。そのようにして採り上げられた問題である農薬の安全性評価についての委員会活動を例に挙げて最近の活動内容が説明された。農薬の安全性評価をよりよく行うためには安全性評価プロセスの柔軟性を向上させることが重要で、HESI では段階的に試験を行う“Tier approach”を提唱している。このアプローチで動物試験の数の削減を図っている。

第 10 回 日時：2006 年 1 月 18 日（月）18:30—20:00

講師：長尾 拓 氏〔国立医薬品食品衛生研究所 所長〕

演題：「医薬品と食品の安全性—国立医薬品食品衛生研究所の役割—」

参加者： 約 80 名

概要： 国立医薬品食品衛生研究所に関して、その歴史的な歩みや現在行っている国民生活に身近に関係する多種多様な業務について説明された。トキシコゲノミクスでは薬の主

作用と副作用の観点からの用量 - 作用の関係や遺伝子レベルでの毒性調査、毒性試験についての概説、ファーマゲノミクスでは遺伝子を調べることで薬の副作用の個人差まで調べることができるなどの話、食品の安全性に関してはポジティブリスト制と遺伝子組み換え作物などバイオテクノロジー応用食品の安全性・有用性についての考え方や検査の方法などについて広範な内容について紹介された。

Ⅲ. 調査・研究活動

1. 服田研究室

1-1. 科学技術リテラシー像策定のための基盤調査

2005年度科学技術振興調整費課題「科学技術リテラシー構築のための調査研究サブテーマ2. 科学者のコミュニティーや産業界の国民の科学技術リテラシーに関する意見集約・類型化調査」
国民が身に付けていることが望ましいと思う科学技術リテラシーのイメージを、ウェブアンケートとインタビューによって調査した。

報告書：

平成17年度科学技術振興調整費課題「科学技術リテラシー構築のための調査研究 サブテーマ2. 科学者コミュニティーや産業界の国民の科学技術リテラシーに関する意見集約・類型化調査」

学会発表等：

服田昌之、「科学技術リテラシー像策定にむけて：21世紀を豊かに生きるために」、公開シンポジウム パネル報告、東京都千代田区学術総合センター、2006年3月4日

2. 増田研究室

2-1. 化学物質総合管理学に関する調査・研究

2-1-1. 化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究

2005年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：課題番号 15310021「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発に関する研究」

これまでに開発した評価指標の基本体系－Science軸・Capacity軸・Performance軸(SCP軸)－に基づき、視野を有害性評価、曝露評価、リスク評価、リスク管理の四つの側面に拡大した評価指標を作成し、次の通り調査研究を実施し3年間の総まとめを行った。

(1) 2006年2月にアラブ首長国連邦開かれた国際化学物質管理会議(ICCM)に参加し、国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)の情報を得るとともに、ガイダンス文書の「世界行動計画」における各セクターの役割を検証した。今後、企業のみならず行政機関、研究機関、NGOなどの化学物質管理に関する取組みがこれまで以上に求められることから、今後はこれを踏まえた評価指標の開発が必要であることを明らかにした。

(2) 視野を有害性評価、曝露評価、リスク評価、リスク管理の四つの側面に拡大した評価指標を開発し、化学物質総合管理学に関するアンケート調査を行った。広範な業態の企業約180

社から回答を得て、業種別、評価要素別の課題を明らかにした。

- (3) 化学物質総合管理の評価軸をSCP軸に据えつつ、アンケート調査結果も踏まえて評価対象の範囲を有害性評価、曝露評価、リスク評価、リスク管理の四つの側面に拡大した企業行動評価のための評価指標の基本的枠組みを完成させた。
- (4) 実施したアンケート調査の結果を解析しつつ、評価項目、評価方法などに修正と改訂を加えて「企業行動評価のための評価項目一覧表」をまとめた。これによって今後の継続的な調査に適する具体的内容を整備した。
- (5) 企業評価のための評価指標を参考にして、化学物質総合管理において重要な機能をになう化学物質の試験や評価に係る専門機関のための評価指標を作成した。

報告書：

- 1) 2005年度科学研究費補助金実績報告書(基盤研究(B)(2):課題番号 15310021)「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究」
- 2) 「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究」(課題番号 15310021). 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書. 全228頁. 2006年3月.

報文等：

- 1) 星川欣孝, 増田優. 「EUの新化学物質政策にみる化学物質総合管理の進展 - 行政および産業界の行動評価指標の開発を目指して」. 化学生物総合管理. 1(2), 2005年, p 228-244.
- 2) 増田優. 「化学物質管理のすすめ 化学物質総合管理の新時代 - 概念から実践へ -」. 化学工学. 69(12), 2005年, p 714-718.
- 3) 高橋俊彦, 山崎隆生, 大久保明子, 増田優. 「企業の社会的責任と化学物質総合管理を巡る最近の国際動向 - 行動評価指標の開発の視点を踏まえて -」. 化学物質総合管理. 1(2), 2005年, p 288-305.
- 4) 大久保明子, 増田優. 「化学物質総合管理のための評価指標の開発(II) - 2004年度企業行動調査結果の分析 -」. 化学物質総合管理 1(3), 2005年, p 383-402.
- 5) 窪田清宏, 大塚雅則, 高月峰夫, 結城命夫, 増田優. 「化学物質総合管理におけるハザードを中心とした企業行動の評価」. 化学物質総合管理 1(3), 2005年, p 403-427.
- 6) 増田優. 「化学物質総合管理を越えた新たな潮流 - 基盤の整備と人材の教育」. 化学物質総合管理. 1(3), 2005年, p 428-440.
- 7) 増田優. 「これからの化学物質総合管理 - 教育の現状と人材育成の試み -」. 労働の科学. 60(9), 2005年, p 534-537.
- 8) 窪田清宏, 結城命夫, 増田優. 「化学物質総合管理のための評価指標」. 化学生物総合管理学会第2回学術総会要旨集, 2005年, p 41-44.
- 9) 窪田清宏, 結城命夫, 増田優. 「化学物質に係る企業行動に関する評価指標の開発 - 評価指標を使った企業アンケート調査結果の解析 -」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学

術集会要旨集, 2006年, p 3-10.

- 10) 高橋俊彦, 結城命夫, 増田優. 「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (SAICM)”に関する国際動向調査」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会要旨集, 2006年, p 21-39.
- 11) 福富文武, 増田優. 「いわゆる健康食品とリスクアセスメント —国際的な視点での機能性及び安全性評価の枠組みを目指して—」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会要旨集, 2006年, p 1-2.

学会発表等 (口頭発表者の氏名に下線を付した):

- 1) 窪田清宏, 結城命夫, 増田優. 「化学物質総合管理のための評価指標」. 化学生物総合管理学会第2回学術総会. 東京都千代田区日立東お茶の水ビル, 2005年11月.
- 2) 窪田清宏, 結城命夫, 増田優. 「化学物質に係る企業行動に関する評価指標の開発 —評価指標を使った企業アンケート調査結果の解析—」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.
- 3) 高橋俊彦, 結城命夫, 増田優. 「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (SAICM)”に関する国際動向調査」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.
- 4) 福富文武, 増田優. 「いわゆる健康食品とリスクアセスメント —国際的な視点での機能性及び安全性評価の枠組みを目指して—」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.

2-1-2. 化学物質管理に係る法規制の国際比較と日本の法律体系に関する研究

EUの新化学物質政策である REACH (化学物質の登録、評価、認可) 規則案の全体像および施行のための準備状況 (2004年度調査) を検証しつつ、日本の化学物質関連法制の枠組みとその運用の問題点を考察し改善の方策を検討した。

日本の関連法制は、1940年代後半から事案ごとの必要性に応じて個別に制定されてきたまま、今日までの間に総合的な化学物質管理体系の視点からの見直しは行われていない。そこで、化学物質管理の適正化に関する各種の国際協調活動 (主に、UNCED アジェンダ 21 の第 19 章) の最近の具体的成果を踏まえ、日本の関連法制の抜本的改善策として、現行法制の枠組みについては、国際調和が最も進展している化学物質の危険有害性 (ハザード) 評価および関連コミュニケーション制度 (分類・表示、安全性データシート) を一元的に運用しうる法律体系に組みなおし、かつ、ハザード関連技術事項を包括的に担う専門評価機関を設置することが日本の緊急課題であることを提案した。

報文等:

- 1) 星川欣孝, 増田優. 「EUの新化学物質政策にみる化学物質総合管理の進展□行政および産業界の行動評価指標の開発を目指して」. 化学生物総合管理.1(2), 2005年, p 228-244.

- 2) 星川欣孝,増田優.「化学物質管理能力の抜本的強化構想□化学物質総合管理体系への枠組みの変革」.化学生物総合管理.1(2), 2005年,p271-279.
- 3) 星川欣孝,高橋俊彦,結城命夫,福富文武,増田優.「化学物質管理体系の変革」.化学生物総合管理学会第2回学術総会要旨集, 2005年, p37-40.
- 4) 星川欣孝,増田優.「化学産業界のHPVイニシアティブの意義」.化学生物総合管理学会2006年春季学術集会要旨集,2006年,p13-19.
- 5) 星川欣孝,増田優.「“ナショナルプロフィール”にみる化学物質管理適正化の緊急性」.日本リスク研究学会第18回研究発表会,講演論文集.第18巻,2005年, p 171-176.
- 6) 高橋俊彦,結城命夫,増田優.「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)”に関する国際動向調査」.化学生物総合管理学会2006年春季学術集会,要旨集 p 21-39. 東京都文京区お茶の水女子大学.2006年3月.

学会発表等（口頭発表者の氏名に下線を付した）：

- 1) 星川欣孝,高橋俊彦,結城命夫,福富文武,増田優.「化学物質管理体系の変革」.化学生物総合管理学会第2回学術総会. 東京都千代田区日立東お茶の水ビル, 2005年11月.
- 2) 星川欣孝,増田優.「化学産業界のHPVイニシアティブの意義」.化学生物総合管理学会2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学,2006年3月.
- 3) 星川欣孝,増田優.「“ナショナルプロフィール”にみる化学物質管理適正化の緊急性」.日本リスク研究学会第18回研究発表会. 大阪府吹田市大阪大学コンベンションセンター, 2005年11月.
- 4) 高橋俊彦,結城命夫,増田優.「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)”に関する国際動向調査」.化学生物総合管理学会2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学.2006年3月.

2-1-3. ナノ材料のリスク評価に関する研究

化学生物総合管理学会と連携しつつ、ナノ材料の健康影響及び環境影響のリスク評価のあり方について検討を行った。2005年度は、前年度行った内外のナノ材料の安全性評価、政策に関する文献調査結果を踏まえつつ、新規化学物質だけでなく、既存の化学物質でこれまでハザードのレベルが低く安全と考えられていた物質や既存の取扱い方法について、開発、生産、流通、貯蔵、使用等の各階における現行のリスク管理制度の問題点の整理、再検討を行った。

また、英国王立協会と日本学術会議が主催するナノ技術の健康、環境影響等に関するワークショップに参加し、発表等を行った。

報告書：

- 1) 増田優.「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー化学物質総合管理における国際的論議と経験を踏まえてー」.「ナノテクノロジーの社会的需要の促進に関する調査研究」科学技術振興調整費成果報告書（産業技術総合研究所・物質材料研究機構・国立環境研究所・国立医薬品食品衛生研究所）. 2006年, p 276-291.

報文等：

- 1) M.Masuda.“Implication to Nanomaterial Risk Management From Experience in International Discussions on Chemical Risk Management”. UK-Japan workshop on health, environmental and societal Impacts of nanotechnologies Science Council of Japan & The Royal Society, 2005年,p12-13.
- 2) 増田優,「ナノ材料の総合管理の展開を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー管理と開発融合による経営への進化ー」,信州大学知的クラスター創成事業講演会予稿集,2006年,p1-31.
- 3) 増田優,「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー化学物質のスクの評価と管理における国際的論議の経験を踏まえてー.炭素材料学会 2月セミナー予稿集.2006年,p 47-63.

学会発表等：

- 1) K.Katao.“Application of the present Chemicals Risk management System to Nano-materials”. A joint Royal Society – Science Council of Japan Workshop on the potential health,environmental and societal impacts of nanotechnology.英国王立協会 & 日本学会会議. ロンドン,2005年7月.
- 2) K.Katao.“Round table discussion on bilateral academia collaboration”. A joint Royal Society – Science Council of Japan Workshop on the potential health, environmental and societal impacts of nanotechnology.英国王立協会 & 日本学会会議. 東京(東京ビッグサイト),2006年2月.
- 3) 増田優,「ナノ材料の総合管理の展開を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー管理と開発融合による経営への進化ー」.知的クラスター創成事業講演会.長野県長野市信州大学,2006年2月.
- 5) 増田優,「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー化学物質のスクの評価と管理における国際的論議の経験を踏まえてー.炭素材料学会 2月セミナー. 東京都千代田区学士会館,2006年2月.

2-2. 社会技術革新学に関する調査・研究

2-2-1. 機能性材料における技術革新に関する研究

本研究の目的は、従来の技術革新を解析し、技術革新を効率的に起こす方法論を見出すことにある。実験的検証を伴う自然科学の研究手法をとることができないため、社会科学、人文科学で採用されている「比較研究法」を用い、歴史的な技術革新について、コンテキストを考慮しながら、同一性、相似性、異質性の視点から類型化することに着手した。また、これからのイノベーションや技術革新では、企業の社会的責任や企業の倫理観を前提として企業価値を高める必要がある。従って、市場性や経営的視点からのみならず、こうした視点からも鳥瞰する必要がある。当面、研究から開発、事業化、産業化、製品の終焉までのプロセスで起こった技術革新を、市場性を縦軸に、技術の進化を横軸にした4象限でプロットし、解析している。

なお、本研究の一部は文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本が先行した機能性材料における技術革新」の公募研究に応募し採択された。

特定領域研究：平成 18 年度－19 年度、研究代表者；宮寺博、分担研究者；金城徳幸

報文等：

- 1) 金城徳幸.『『持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)』の活動について』. 化学生物総合管理学会 2006 年春季学術集會要旨集. 2006 年, p 41-56.

学会発表等：

- 1) 金城徳幸.『『持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)』の活動について』.化学生物総合管理学会 2006 年春季学術集會.東京都文京区お茶の水女子大学, 2006 年 3 月.
- 2) 金城徳幸 (コーディネーター).「CSRを考える」.日化協レシポンシブル・ケア協議会パネル討論会.東京都港区日本消防会館,2005 年 9 月.

2-3. 人材育成に関する調査・研究

2-3-1. 社会人の再教育に関する調査研究

化学物質管理や技術革新などの新規分野における社会人の再教育などの人材育成のあり方について調査・研究する。

当面は「化学・生物総合管理の再教育講座」の実践を通して得られる情報や知見をもとに本研究を進める。

報文等：

- 1) 増田優,「化学・生物総合管理の再教育講座」, 日本リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集, 2005 年, p 1-20.
- 2) 増田優,「化学生物総合管理再教育講座の概要」, 日本リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集追加配布, 2005 年.

学会発表等：

- 1) 増田優,「化学・生物総合管理の再教育講座」, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集, リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, p 1-20, 2005 年 11 月
- 2) 増田優,「化学生物総合管理再教育講座の概要」, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集追加配布, リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, 2005 年 11 月

IV. 成果・業績一覧

1. 刊行物・著書

- 1) 増田優,柴田徳思,常盤文克,築紫みずえ,中西準子,滝澤公子.「茶論 お茶の水学術サロン講演集2 科学技術と社会的責任」.東京都文京区,お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター,2006年3月,全191頁.
- 2) 増田優.「化学物質総合管理」.『地球環境の化学 ー役に立つ化学シリーズ9ー』.朝倉書店,2006年,p70-84.

2. 計画書・報告書

- 1) 2004年度ライフワールド・ウオッチセンター活動報告書,お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター.2005年5月,全12頁.
- 2) 2005年度ライフワールド・ウオッチセンター活動計画書,お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター.2005年4月,全10頁.
- 3) 平成17年度科学技術振興調整費課題「科学技術リテラシー構築のための調査研究 サブテーマ2. 科学者コミュニティーや産業界の国民の科学技術リテラシーに関する意見集約・類型化調査」
- 4) 「化学・生物総合管理の再教育講座」2005年度委託業務計画書.お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター.2005年4月,全10頁.
- 5) 「化学・生物総合管理の再教育講座」2004年度委託業務成果報告書.お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター.2005年5月,本文41頁、資料69頁、添付資料60頁.
- 6) 2005年度科学研究費補助金実績報告書(基盤研究(B)(2):課題番号 15310021)
「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究」
- 7) 「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究」(課題番号 15310021),平成15年度~平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書.2006年3月,全228頁.
- 8) 「化学物質管理に係る企業行動に関する評価指標の開発研究【別冊資料】」(課題番号15310021),平成15年度~平成17年度科学研究費補助金基盤研究(基盤研究(B)(2))研究成果報告書.2006年3月,全44頁.
- 9) 増田優.「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー化学物質総合管理における国際的論議と経験を踏まえてー」.「ナノテクノロジーの社会的需要の促進に関する調査研究」科学技術振興調整費成果報告書(産業技術総合研究所・物質材料研究機構・国立環境研究所・国立医薬品食品衛生研究所).2006年,p276-291.
- 10) 増田優.「化学物質リスク総合管理の国際的展開と政策的枠組み」.化学物質リスク総合管理技術研究イニシアティブ報告書第2章.総合科学技術会議化学物質リスク総合管理技術研究イニシアティブ. 2006年,p7-39.

3. 報文等

- 1) 星川欣孝,増田優.「EUの新化学物質政策にみる化学物質総合管理の進展-行政および産業

- 界の行動評価指標の開発を目指して」.化学生物総合管理.1(2),2005年,p 228-244.
- 2) 星川欣孝,増田優.「化学物質管理能力の抜本的強化構想 - 化学物質総合管理体系への枠組みの変革」.化学生物総合管理.1(2),2005年,p 271-279.
 - 3) 増田優.「化学物質管理のすすめ 化学物質総合管理の新時代 - 概念から実践へ-」.化学工学.69(12),2005年,p 714-718.
 - 4) 高橋俊彦,山崎隆生,大久保明子,増田優.「企業の社会的責任と化学物質総合管理を巡る最近の国際動向 - 行動評価指標の開発の視点を踏まえて-」.化学物質総合管理.1 (2), 2005年,p 288-305.
 - 5) 大久保明子,増田優.「化学物質総合管理のための評価指標の開発(Ⅱ) - 2004年度企業行動調査結果の分析-」.化学物質総合管理.1(3),2005年,p 383-402.
 - 6) 窪田清宏,大塚雅則,高月峰夫,結城命夫,増田優.「化学物質総合管理におけるハザードを中心とした企業行動の評価」.化学物質総合管理.1(3),2005年,p 403-427.
 - 7) 増田優.「化学物質総合管理を越えた新たな潮流 - 基盤の整備と人材の教育」.化学物質総合管理.1(3),2005年,p 428-440.
 - 8) 増田優.「安全の新しい常識」.安全工学.44(4),2005年,p 223.
 - 9) 増田優.「これからの化学物質総合管理 - 教育の現状と人材育成の試み-」.労働の科学.60(9),2005年,p 534-537.
 - 10) 窪田清宏,結城命夫,増田優.「化学物質総合管理のための評価指標」.化学生物総合管理学会第2回学術総会要旨集, 2005年, p 41-44.
 - 11) 窪田清宏,結城命夫,増田優.「化学物質に係る企業行動に関する評価指標の開発 - 評価指標を使った企業アンケート調査結果の解析-」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集要旨集, 2006年,p 3-10.
 - 12) 高橋俊彦,結城命夫,増田優.「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)”に関する国際動向調査」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集要旨集, 2006年,p 21-39.
 - 13) 福富文武, 増田優.「いわゆる健康食品とリスクアセスメント - 国際的な視点での機能性及び安全性評価の枠組みを目指して-」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集要旨集,2006年, p 1-2.
 - 14) 星川欣孝,高橋俊彦,結城命夫,福富文武,増田優.「化学物質管理体系の変革」.化学生物総合管理学会第2回学術総会要旨集, 2005年,p37-40.
 - 15) 星川欣孝,増田優.「化学産業界の HPV イニシアティブの意義」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集要旨集,2006年,p13-19.
 - 16) 星川欣孝,増田優.「“ナショナルプロファイル”にみる化学物質管理適正化の緊急性」.日本リスク研究学会第18回研究発表会,講演論文集,第18巻,2005年,p 171-176.
 - 17) M.Masuda“Implication to Nanomaterial Risk Management From Experience in International Discussions on Chemical Risk Management”. UK-Japan workshop on health, environmental and societal Impacts of nanotechnologies Science Council of Japan & The Royal Society, 2005年,p12-13.

- 1 8) 増田優,「ナノ材料の総合管理の展開を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー管理と開発融合による経営への進化ー」, 信州大学知的クラスター創成事業講演会予稿集, 2006 年, p1-31.
- 1 9) 増田優.「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるかー化学物質のリスクの評価と管理における国際的論議の経験を踏まえてー.炭素材料学会 2 月セミナー予稿集. 2006 年, p 47-63.
- 2 0) 金城徳幸.「『持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)』の活動について」.化学生物総合管理学会 2006 年春季学術集会要旨集. 2006 年, p 41-56.
- 2 1) 増田優,「化学・生物総合管理の再教育講座」, 日本リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集, 2005 年, p 1-20.
- 2 2) 増田優,「化学生物総合管理再教育講座の概要」, 日本リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, リスクマネジメントに関する 4 大学合同セッション予稿集追加配布, 2005 年.

4. 学会発表等 (口頭発表者の氏名に下線を付した)

- 1) K.Katao,"Application of the present Chemicals Risk management System to Nano-materials". A joint Royal Society – Science Council of Japan Workshop on the potential health, environmental and societal impacts of nanotechnology.英国王立協会 & 日本学術会議. ロンドン,2005 年 7 月.
- 2) K.Katao,"Round table discussion on bilateral academia collaboration". A joint Royal Society – Science Council of Japan Workshop on the potential health, environmental and societal impacts of nanotechnology.英国王立協会 & 日本学術会議.東京 (東京ビッグサイト) ,2006 年 2 月.
- 3) 服田昌之.「科学技術リテラシー像策定にむけて: 21 世紀を豊かに生きるために」、公開シンポジウム パネル報告、東京都千代田区学術総合センター、2006 年 3 月 4 日
- 4) 星川欣孝, 増田優.「化学物質管理体系の変革」.化学生物総合管理学会第 2 回学術総会.東京都千代田区日立東お茶の水ビル, 2005 年 11 月.
- 5) 窪田清宏,結城命夫,増田優.「化学物質総合管理のための評価指標」.化学生物総合管理学会第 2 回学術総会.東京都千代田区日立東お茶の水ビル.2005 年 11 月.
- 6) 星川欣孝, 増田優.「“ナショナルプロファイル”にみる化学物質管理適正化の緊急性」.日本リスク研究学会第 18 回研究発表会.大阪府吹田市大阪大学コンベンションセンター, 2005 年 11 月.
- 7) 窪田清宏,結城命夫,増田優.「化学物質に係る企業行動に関する評価指標の開発ー評価指標を使った企業アンケート調査結果の解析ー」.化学生物総合管理学会 2006 年春季学術集会.東京都文京区お茶の水女子大学.2006 年 3 月.
- 8) 高橋俊彦,結城命夫,増田優.「“国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (SAICM)” に関する国際動向調査」.化学生物総合管理学会 2006 年春季学術集会.東京都文京区お茶の

水女子大学.2006年3月.

- 9) 金城徳幸, 増田優.『持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)』の活動について」. 化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会.東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.
- 10) 福富文武, 増田優.「いわゆる健康食品とリスクアセスメント ―国際的な視点での機能性及び安全性評価の枠組みを目指して―」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会. 東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.
- 11) 金城徳幸(コーディネーター).「CSRを考える」.日化協レシポンシブル・ケア協議会 パネル討論会.東京都港区日本消防会館,2005年9月.
- 12) 星川欣孝, 増田優.「化学産業界のHPVイニシアティブの意義」.化学生物総合管理学会 2006年春季学術集会.東京都文京区お茶の水女子大学, 2006年3月.
- 13) 増田優,「化学・生物総合管理の再教育講座」, リスクマネジメントに関する4大学合同セッション, リスク研究学会・大阪大学「環境リスク管理人材養成」本部, 2005年11月
- 14) 増田優,「ナノ材料の総合管理を何を土台に如何なる枠組みで考えるか ―化学物質のリスクの評価と管理における国際的論議の経験を踏まえて―」, 炭素材料学会2月セミナー, 2006年2月

5. 講演等

- 1) 増田優,「化学物質総合管理と経営の新たな潮流 ―コンプライアンスを越えてリスクマネジメントへ―」, 高分子基礎講座講演要旨集, 2005, p1-20.
- 2) 増田優,「化学物質総合管理と経営の新たな潮流―管理を越えて経営へ―」, 環境パートナーシップ・CLUB 環境経営標準化部会. 講演集, 2005, p15-34.
- 3) 増田優,「ナノ材料の総合管理の展開を何を土台に如何なる枠組みで考えるか―管理と開発融合による経営への進化―」, 知的クラスター創成事業講演会予稿集, 2006, p1-31.

6. 報道等

- 1) 「化学・生物総合管理の再教育講座」2005年後期パンフレット・ポスター
- 2) 「化学・生物の総合教育講座」, 情報Box 2005年7月20日朝刊(読売新聞)
- 3) 「到来する化学物質総合管理の時代 ―安全性確保の情報提供は企業の責任:振化学品規制REACH―」, 日経エコロジーNo.77(2005.11), p87-91, (日経BP社)
- 4) 「経営課題へとシフトし始めた化学物質総合管理」, 日経エコロジーNo.79(2006.1), p66-67, (日経BP社)
- 5) 「『化学・生物総合管理の再教育講座』開講へ」, 日刊薬業 No.11947, p12, 2006, ((株)じほう)
- 6) 「社会人向け化学・生物総合管理講座が好評 ―理論と実学 無料で講習東京以外での開催検討―」, 2006年2月10日, (日刊工業新聞)
- 7) 「『環境時代』に問われる企業の化学物質管理能力 ―識者に聞く 化学物質総合管理の意義とITの役割―」, 月間CIO 70, p72-74, 2006, (IDGジャパン)

- 8) 「お茶の水女子大学が『化学・生物総合管理の再教育講座』開講へ ー多様な知識が結集する『知の市場』を目指すー」, Pharm Tech Japan (ファームテクジャパン) 22, p378-389, 2006.
- 9) 「レーザー：安全管理に目を」, 2006年3月9日, (日刊工業新聞)

V. 体制

1. センター教職員

2005年度末現在における LWWC 教職員の名簿を付録2に示す。

2. 運営委員会

本センターの活動を円滑に遂行するため運営委員会を設置している。

基本的に月例で開催し、本年度は計11回開催し LWWC の活動に係わる諸案件を審議した。

2005年度 LWWC 運営委員会の運営委員名簿を付録3に、活動状況を付録4に示す。

付録1

2005年度LWWC活動年表

2005年

- 4月
 - ・第1回運営委員会(4月4日)
 - ・平成17年度前期「化学・生物総合管理の再教育講座」講義開始(4月15日)
- 5月
 - ・第2回運営委員会(5月9日)
 - ・第1回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(5月25日)
 - ・第3回運営委員会(5月30日)
- 6月
 - ・平成17年度後期「化学・生物総合管理の再教育講座」受講生募集開始
 - ・第9回お茶の水学術サロン(マイケル・P・ホルサップル氏:リスクアセスメントの進歩を目指して)(6月27日)
 - ・第4回運営委員会(6月27日)
- 7月
 - ・
- 8月
 - ・平成17年度前期「化学・生物総合管理の再教育講座」最終講義終了(8月10日)
 - ・第5回運営委員会(8月29日)
 - ・第2回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(8月31日)
- 9月
 - ・平成17年度後期「化学・生物総合管理の再教育講座」講義開始(9月2日)
 - ・第6回運営委員会(9月26日)
 - ・2005年度前期受講修了証発行(9月30日)
- 10月
 - ・第3回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(10月27日)
 - ・第8回運営委員会(10月31日)
- 11月
 - ・
- 12月
 - ・第9回運営委員会(12月26日)
 - ・第4回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(12月26日)

2006年

- 1月
 - ・第10回お茶の水学術サロン(長尾拓:医薬品と食品の安全性)(1月18日)
 - ・平成18年度前期「化学・生物総合管理の再教育講座」受講生募集開始
 - ・第10回運営委員会(1月30日)
 - ・第5回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(1月30日)
- 2月
 - ・平成17年度後期「化学・生物総合管理の再教育講座」最終講義終了(2月17日)
 - ・第11回運営委員会(2月27日)
 - ・「化学・生物総合管理の再教育講座」実証講義(2月1,3,7日)
- 3月
 - ・第6回「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会・評価委員会(3月6日)
 - ・2005年度後期受講修了証発行(3月23日)

付録 2

LWWC 教職員名簿

(2006 年 3 月現在)

増田 優	教授 センター長
堅尾 和夫	教授
金城 徳幸	教授
高橋 俊彦	助教授
星川 欣孝	科研費研究員
結城 命夫	科研費研究員
山崎 徹	教務補佐員
澁谷 徹	教務補佐員
藤井 正敏	教務補佐員
杉山 旭	教務補佐員
矢野 礼一郎	教務補佐員
松井 達郎	教務補佐員
磯部 麻郎	教務補佐員
福富 文武	教務補佐員
岸田 春美	教務補佐員
柴田 久仁子	教務補佐員
瀬尾 葉子	教務補佐員
伊藤 由美	教務補佐員
清水 照代	教務補佐員

付録3

LWWC 運営委員名簿

(2006年3月現在)

増田 優	ライフワールド・ウォッチセンター教授
堅尾 和夫	ライフワールド・ウォッチセンター教授
金城 徳幸	ライフワールド・ウォッチセンター教授
高橋 俊彦	ライフワールド・ウォッチセンター助教授
小川 昭二郎	人間文化研究科教授
佐竹 元吉	生活環境研究センター教授
千葉 和義	サイエンス&エデュケーションセンター教授
服田 昌之	湾岸生物教育研究センター助教授

付録4

2005年度 LWWC 運営委員会活動状況

	開催日時	出席者	議 題
第1回	2005年 4月4日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、佐竹元吉、 (陪席) 堅尾和夫、 高橋俊彦	1. 「化学・生物総合管理の再教育講座」の進捗状況 2. 化学・生物総合管理再教育講座推進委員会について 3. 化学・生物総合管理再教育講座評価委員会について 4. その他
第2回	2005年 5月9日	増田優、服田昌之、 佐竹元吉、 (陪席) 堅尾和夫、 高橋俊彦	1. 化学・生物総合管理再教育講座推進委員会について 2. 化学・生物総合管理再教育講座評価委員会について 3. その他
第3回	2005年 5月30日	増田優、千葉和義、 (陪席) 堅尾和夫、 金城徳幸、 高橋俊彦	1. 2004年度の活動報告について 2. 2005年度の活動計画について 3. 第9回お茶の水サロンの開催について 4. 化学・生物総合管理再教育講座推進委員会および評価委員会の結果報告 5. その他
第4回	2005年 6月27日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、 (陪席) 堅尾和夫、 金城徳幸、 高橋俊彦	1. 2004年度の活動報告について 2. 2005年度の活動方針について 3. 「化学・生物総合管理の再教育講座」後期受講者募集について 4. LWWC 運営委員の追加について 5. 日本学術審議会附置二国間学术交流委員会日英アカデミー「ナノテクノロジー」共同プロジェクト推進委員会委員の委嘱について

第5回	2005年 8月29日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、佐竹元吉、 千葉和義、堅尾和夫、 金城徳幸、高橋俊彦	<ol style="list-style-type: none"> 1. LWWC 運営委員会内規について 2. 「化学・生物総合管理の再教育講座」の実施に係る旅費支払い内規について 3. 「化学・生物総合管理の再教育講座」推進委員会および評価委員会について 4. 委員等の委嘱について 5. 奨学寄附の受け入れについて 6. その他
第6回	2005年 9月26日	増田優、千葉和義、 堅尾和夫、金城徳幸、 高橋俊彦 服田昌之(委任状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座関連の報告 2. 服田助教授からの科学リテラシー調査協力要請について 3. その他
第7回	2005年 10月31日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、堅尾和夫、 金城徳幸、高橋俊彦、 千葉和義(委任状)	<ol style="list-style-type: none"> 4. 公開講座関連 5. 服田助教授からの科学リテラシー調査協力要請について 6. その他
第8回	2005年 11月28日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、千葉和義、 堅尾和夫、金城徳幸、 高橋俊彦	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学・生物総合管理再教育講座の進捗状況について 2. その他
第9回	2005年 12月26日	増田優、服田昌之、 小川昭二郎、千葉和義、 堅尾和夫、金城徳幸、 高橋俊彦、 佐竹元吉(別途)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2006年度公開講座の開講科目について 2. 第10回お茶の水学術サロンの開催について 3. 人事案件 4. その他
第10回	2006年 1月30日	増田優、服田昌之、 佐竹元吉、千葉和義、 堅尾和夫、金城徳幸、 高橋俊彦	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2006年度化学・生物総合管理の再教育講座について 2. その他
第11回	2006年 2月27日	増田優、堅尾和夫、 高橋俊彦 服田昌之(委任状) 千葉和義(委任状) 金城徳幸(委任状)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学・生物総合管理の再教育講座について 2. その他